

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	ファミリーホームの運営						掲載ページ		
							150		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を有する子どもや家庭の支援	担当局	子ども家庭局
		67,726	千円	71,534	千円	施策名	社会的養護が必要な子どもへの支援	担当課	子育て支援課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	家庭的養護を促進することで、児童間の相互作用を活かしつつ、児童の自主性を尊重し、基本的な生活習慣を確立するとともに、豊かな人間性及び社会性を養い、児童の自立を支援します。							
<b>活動計画</b>	ファミリーホーム移行可能な里親に打診し、開設を促します。		<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。					
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)		<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績 (達成率)</b>		→	<b>【活動の状況】</b>	
	ファミリーホーム実施か所数								
	ファミリーホームの運営により、家庭的な養育環境を整え、児童の自立を支援するため、活動指標として設定しました。 (最終目標と最終年度)ファミリーホーム移行可能な里親に開設を促す		5 か所	5 か所	6 か所			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	(最終目標と最終年度)全資格取得希望者への助成				120.0 %		大変順調		
							順調	<b>順調</b>	
							やや遅れ		
							遅れ		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	ファミリーホーム実施か所数も増え、事業が予定どおりに進んでいるため順調としました。また、ファミリーホームは、家庭的養護の中できめ細やかで手厚いケアができ、子どもの健やかな成長に有効です。
	<b>「経済性」「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	家庭的な生活の中で児童と関わっていけるため、児童の基本的な生活習慣の確立や健全育成にとって、効果が高いと考えます。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

子どもの健やかな成長のためにファミリーホームの整備を行います。
---------------------------------

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	家庭生活体験事業（一日里親事業）の拡大						掲載ページ		
							150		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を有する子どもや家庭の支援	担当局	子ども家庭局
		21,466	千円	20,556	千円	施策名	社会的養護が必要な子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	児童養護施設等入所児童に家庭生活を体験させることで、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進します。						
活動計画	家庭生活体験事業を各施設に周知し、利用促進を図ります。						活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動指標	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		→	【活動の状況】
	家庭生活体験児童数		328 人	児童それぞれの状況に合わせて家庭的生活を体験できるようにすること。	309 人		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	施設入所児童に家庭生活を体験させることにより、児童の社会性の涵養、情緒の安定を図り、退所後の自立を促進するため、体験児童数を活動指標としました。  （最終目標と最終年度）							
	（最終目標と最終年度）						順調	順調
（最終目標と最終年度）						やや遅れ 遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	体験生活児童数は減少しましたが、希望する児童養護施設の入所児童全員を家庭生活体験事業に参加させることができたため、順調としました。児童養護施設の入所児童は、家庭生活での基本的習慣などを体得しにくい環境にあるため、体験させることで退所後の自立を促進できます。また、家庭の中で、児童と個別にかかわることができるため、処遇の個別化にもつながり有効と考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	児童養護施設に入所しながら、短期間でも家庭生活を体験する中で家庭的な愛情を感じ取れることは、児童の心身の健やかな成長にとって有意義なものであり、処遇の面で非常に効果的です。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
児童養護施設等入所児童に家庭生活を体験させる当事業を推進し、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進します。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	里親促進事業							掲載ページ
								150
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局
		3,590	千円	3,180	千円	施策名	社会的養護が必要な子どもへの支援	担当課
								子ども家庭局
								子ども総合センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保護を要する子どもに対して、より家庭的な環境で愛着の形成を図ることができる里親委託を推進するため、児童福祉法に基づき里親制度の普及啓発、里親のための研修・相談・援助など、里親の支援を総合的に実施します。		<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動計画</b>	里親・ファミリーホーム委託の推進を図ります。							
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率		11.6 %	単年度目標設定なし	14.2 %	→	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	国の「子ども子育てビジョン」(H22.1.29 閣議決定)においても、成果指標として設定されており、成果を示す最適な指標として掲げました。 (最終目標と最終年度) 15%(26年度)							
					-	→	大変順調	
(最終目標と最終年度)					→	順調		

【Check】評価（分析）			
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市のホームページや市政だよりへの掲載、出前講演などを実施し、里親制度の普及啓発に取り組むとともに、里親サロンの開催等を通じて、里親相互の交流による精神的負担の軽減や養育技術の向上を図りました。 その結果、里親・ファミリーホーム委託児童数は60人となり、要保護児童に対する里親等委託率については、11.6%から14.2%と前年度に比べ2.6ポイント上昇しました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて、運営しています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
<p>里親制度は、社会的養護を必要とする子どもを家庭的な環境の下で、子どもの愛着関係を形成し養護を行う制度で、今後も目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが必要だと考えています。</p> <p>このため、里親制度や一日里親体験等の事業について市民に広報し、里親登録者数の増加に努めます。また、登録里親に対しては研修会等を実施し、里親の資質向上を図るとともに、里親サロンや夏季キャンプ等を実施するなど、里親相互の交流を促進し里親の孤立化を防止します。さらに、里親担当職員・里親支援専門相談員が里親宅を積極的に訪問して里親を支援するなど里親委託を推進していきます。</p>